

北広島市長期総合計画審議会 第6回産業・都市部会 議事録

■日 時 平成21年11月17日（火） 18：00～20：30

■会 場 芸術文化ホール活動室3

■出席委員

伊藤寛部会長、麻生昌裕委員、穴田廣光委員、遠藤智恵子委員、小池隆史委員、
藤野伸之委員、森國聡委員、吉田俊一委員

■欠席委員

大木克夫委員、鈴木康照委員

■事務局

木下信司総合計画課長

■傍聴 なし

1. 開 会

【事務局】 それでは、北広島市長期総合計画審議会第6回産業・都市部会を始める。

2. 部会長あいさつ

【部会長】 皆さんこんばんは。本日は第6回の産業・都市部会で、お手元にある資料のとおり、はじめにいくつか市民説明会が開催されているのでその報告を聞き、その後、この部会として議論していたかなければいけないことを詰めたと思っている。

3. 報 告

【事務局】 市民説明会の状況を報告する。先週の水、木、金と3日間実施した。その概要をまとめたものを「総合計画（素案）市民説明会の概要」という資料で配付している。11日に北広島団地住民センターで開催し参加者は18名だった。主な意見は、ここに掲載したとおりである。一つ一つの意見は紹介しないが、基本構想から基本計画部分にわたって幅広く意見が出された。12日に西の里地区で開催し参加者は11名で、13日は農民研修センターで開催し10人の参加があった。

この資料の最後のページの一番下に書いたが、明日市役所の隣の中央会館で6時から、明後日は大曲の夢プラザで説明会を実施する。今のところ3回の参加状況を見ると、参加者数が少なく、ぜひ東部地区、大曲にお住まいの委員には友人等を連れて参加していただけたら有難いと思っている。本人が出られない場合でも、どなたかに声をかけていただけたらと思っているのでよろしく願いしたい。説明会では、カラー刷りのA3の資料をもとに説明を進め、同時に素案も配り説明をしている。5回の説明会が全部終わったら再度報告したいと思っている。市民説明会の概要については以上である。

【部会長】 3会場で説明会があったということだが、特にこの部会に関わるようなことで、

何かお気づきの点はあるか。西の里では廃棄物のことがたくさん出ているがどうか。

【事務局】 廃棄物の処理にはお金がかかり、なかなか簡単には処理できないことから、札幌に近いということもあって、札幌のほうから持ち込まれるものも結構あるというような話だった。

【部会長】 これまで部会で議論されてきたこともあるが、この大曲榎山線のことはいか。

【事務局】 種苗管理センターの前を通り大曲と西の里を結ぶ道路で、JRの上を農場橋という狭い橋がありそこを通る市道である。橋が道路整備のネックになっている。JR線路の上の橋を架けかえるとなると億単位でお金がかかる。

【部会長】 確かに交通量はある。朝、あそこを曲がってくる車が多くあるようだ。今ここで議論したほうがいい意見はあるか。それではよろしいか。

4. 議 事

【部会長】 議事に入りたいと思うが、事務局から、基本計画の整理、重点プロジェクトの設定、地区別の基本的方向という3点が挙げられているが、まず基本的なことを事務局から説明いただきたい。

【事務局】 10月28日の全体会議のときに会長が配付した「部会での検討のあり方について」という資料の中に4点書いてあった。1つ目に、あまり細部にわたる部会案は、全体としての案をつくる上で取り上げられない場合があるので注意してくださいということ。これに関しては、前回の部会でも少し話が出ていたが、具体的な話をしないということではなく、最終的に計画書ができたときに、あまり細かいものは載らない可能性もあるということで、部会の議論の中で具体的な話を出すのを妨げるものではない。

2つ目に、個々の施策に関する事務局案については、表現上、また内容上、不適切なものがあれば、部会案として修正いただき、追加も可能ということであった。これは施策に関して議論が不足している部分についてはやっていただくが、修正も可能で、場合によっては追加も可能だということである。

3番と4番目は、重点プロジェクトに関連する話であり、各分野で強調したいものについて十分議論してくださいということと、部会としてメリハリをつけ、重点課題につながるようなまとめをお願いしたいということである。これから議論しようとしている重点プロジェクトである。市民目線からのメッセージ、強調点が何らかの形で伝わるように工夫してくださいということであった。

この考え方を踏まえ、まずは基本計画の審議で足りない分をやっていただくというのが「(1) 基本計画の審議」である。ここで何が議論のベースになるかということ、素案の中の「現状と課題」、「基本的方向」、「施策の分類」、ここまではすでにでき上がっている素案をベースに考えていただきたい。そして、各施策の「主な内容」を抜粋したもの

が載っている部分は、9月4日に配付した基本計画の資料、ここには施策がもう少し多く載っているが、この施策をもとに議論をしていただきたい。施策の主な内容については、9月4日の審議会で提示した案がベースになり、それ以外の部分は素案がベースになる。基本計画の審議方法は、また後で疑問があれば聞いてほしい。

次に、重点プロジェクトについても、今日ともう1回の部会で議論していただきたい。それに先立ち、「重点プロジェクトの審議について」という資料を事前に郵送した。そこに書いてあるやり方で議論していただきたいと思っている。重点プロジェクトの審議を始める前に、詳しく説明させていただく。

「(3) 地区別の基本的方向」については、事務局で案をつくって、それを皆さんに見ていただいてから議論したほうがわかりやすいと思うので、事務局で整理させていただく。それを提示できるのは、たぶん12月の審議会だと思っている。今日と次回の部会では「地区別の基本的方向」の議論はない。

今後の日程については、お手元に案内文があると思うが、11月27日に芸術文化ホールで部会を開催する。時間は6時半から。これまで6時開始が多かったので、開始時間を間違えないように願いたい。都合の悪い方は、事前に事務局に連絡を願う。

【委員】 12月16日以降の日程は決まっているか。

【事務局】 年内はない。これ以降は全部全体会議ということで考えている。まだ流動的ではあるが、1月20日、2月10日、3月10日、4月7日、4月28日ごろということで予定している。

【部会長】 基本計画の整理から今日の議論をしていきたいと思うが、9月4日審議会提示案と書いてある資料はお持ちか。このときの資料は、素案と章構成が若干違うところがある。基本的な内容はここに書かれていることである。

【事務局】 たとえば、素案の33ページに第4章第1節「農業の振興」がある。この中で、「現状と課題」は一応の整理が済んでいるが、この素案の内容について、修正や追加するものがあれば言っていただきたい。「基本的方向」も同じで、すでに整理済みのものが載っている。その下に「施策」とある。その左側に「担い手の育成」、「農地の利用・保全」、「都市住民との交流」、「生産・流通の振興」の区分があるが、この区分もこの素案に書いてあるとおり、これを素材にして意見等をいただきたい。問題はその右側で、「主な内容」というところが、ものによっては抜粋して載っている節がある。それをチェックするには、いったん「9月4日の提示案」に戻って、農業のところを見ていただきたい。9月4日の案にあるものを全部入れ込むことでいいかどうか。「農地の利用・保全」では、9月4日では四つ書いてあるが、素案では二つにまとめて書いてある。

【委員】 農業関係について、今、国の行政刷新会議で、素案の内容とは異なる方向も出ているようだ。市ではここに載せるといっても問題にはならないのか。農業は、補助金の

問題などが随分出ているので、その辺については現段階では何とも言えないと思うが。

【事務局】今は、非常に難しい時期にあると思う。

【委員】市としてこれはできるといっても、中央からどれくらいくるのか。現段階では何とも言いようがない。

【事務局】今やっているのは事業仕分けの段階で、まだ最終的な答えではない。答えはもう少し先になると思う。来年の予算に間に合わせるなら、年明けの1月か2月あたりだと思うが、その結果を待つためにこの議論をストップすることはないと思う。

【事務局】農業の場合は、国の政策と結びついているものが多い。やろうとしていたもの自体がなくなったなどの場合は修正しなければならないと思う。

【委員】そういう場合は市で修正するか。審議会で修正するか。

【事務局】審議会があるうちは審議会に諮りたい。

【委員】この審議会はいつまで継続するのか。

【事務局】この審議会は答申したら終了で、最後の審議会は4月28日ごろの予定である。

【委員】それまでに国の方向が出ればいいが、出なかった場合はどうするか。

【事務局】出なかったら、微妙な部分の記述は避けるなど何か工夫する。いずれにしても、議会に提案し、議会での審議も始まるので、その段階での修正も可能かもしれない。

【部会長】今、事務局から話が出た施策の細かな項目を1個1個チェックしていくか、それとも今まで十分議論されているということで、皆さんからこの部分のこれが足りないのではないかということを出していただく形で議論するか。

【委員】第2節「工業の振興」と第3節「商業の振興」で、商工会の立場が明確に記載されていない。内容的にどうこうではなく文言の問題であるが、基本的方向の文章の中に商工会という表現を入れていただきたい。「工業の振興」の施策の中にも、商工会の文言を付け加えていただきたい。商工会は、北広島市では唯一の経済団体であるから、この辺の立場を明確にしてほしい。これは商工会で報告をかねて協議した結果でもある。文章はある程度事務局側にお任せする。商工会は、市から援助をいただいて運営しているので、もう少しこういう仕事をしなさいと言っていただいてもいいのではないかと思う。

【事務局】 基本的方向のところは商工会という固有名詞が入っていたほうが良いということか。

【委員】 そうである。委員の皆さんで協議いただければ良いと思う。商工会も役割を担いなさいという方向が出ているのが理解しやすいかと思う。

【委員】 工業と商業は2節と3節に分かれている。商工会と云ったら商業と工業の両方に入っている。

【委員】 商工会の構成として、工業と商業の両方いるが、会員としては工業と商業を分けて考えてはいない。

【委員】 北広島市商工業振興基本条例の策定については。

【委員】 条例ができたのは最近。商工業振興基本条例なので工業も含まれている。条例の中には、工業でも商工会としての役割を果たしなさいという意味の文章がある。市もそういう立場でやり、商工会もやるということなので、基本計画にもそういう考え方、商工会も役割を担うのだということを入れていたほうが良いのではないかと思う。

【事務局】 条例はすでに制定されているが、22年度策定予定というのは、条例に基づいて計画をつくるということである。計画はまだできていない。

【委員】 商工業振興条例ができていのに、総合計画にはちょっと触れているだけでは、振興条例をつくった意味がない。振興条例をそれなりのものにするためには、色々な計画にきちんと反映させるべきだ。時間をかけて市民も知恵を出してつくった振興条例だが、拘束力がないので、あくまでも理解してくださいという意味合いのものなので、あらゆる機会をとらえてやっていかないと、せっかくつくった振興条例が形骸化してしまう危険がある。

【委員】 「商業」の施策の一番下に「北広島商工会の各種事業への支援」と載っているが。

【委員】 商業の振興については入っている。工業の方に何も入っていないということか。

【委員】 工業の方には、その辺がない。

【事務局】 総合計画に入れて支障があるというものではないと思う。

【部会長】 商工業振興基本計画という言葉も工業に入れるのか。

【事務局】 文言は事務局でつくらせていただく。商工会には11月25日に出向いて、素案の説明をすることになっている。その時にまた話があるかもしれない。

【部会長】 各節を一つ一つ追っていくか。それとも、皆さんのお気づきのことは何かあるか。

【委員】 素案は事務局が十分配慮してよくまとめたと思っている。よほど何か気づくことがあれば出す方向でいいと思う。

【部会長】 皆さんいかがか。4章、5章あるいは全体を通して気づくところがあったら、後ほどでもいいから自由に出していただきたい。それでは、重点プロジェクトの審議について、事務局から説明をいただく。

【事務局】 重点プロジェクトの審議について説明する。ねらいは、各分野の施策でも、分野を飛び越えて、他の分野と横断的に関連を持たせる、そういうことでより効果が発揮できるようなものがあると思っている。また、総合計画全体の中で、何に力を入れるのかその力点を示すということもあり、重点プロジェクトを設定したいと思っている。

まず、審議の進め方だが、12月16日は全体会議の中で、部会でのまとめを報告していただき、全体で審議していただこうと思っている。「重点プロジェクトの作成」というところは、どういう考え方でやったらいいかを書いているが、これまで部会でいろいろ話されたこと、部会報告としてまとめて全体会議で報告したようなことの中にヒントがあると思っている。その中から重点化すべきものを抽出し、作る上で考えなければならないことは、会長の「検討のあり方」の中にもあったが、まちの都市像などに関連するような重要なものを出していただきたいと思っている。議論をしやすいように、事務局で今までの部会審議等が出たキーワードをつなぎ合わせて3つの案をつくった。それが2ページから3ページに載っているものである。

1つ目の例は、「子育て環境、人づくりプロジェクト」というもので、3つの部会にまたがるような子育て、教育、農業を通じた教育、そういったものをあわせて一つのプロジェクトが組めるのではないかと考えた。

2つ目の例は、「にぎわい、魅力づくりプロジェクト」ということで、産業の振興もあるが、交流の促進、芸術・文化の振興といった広い範囲のことをつなぎあわせて市の魅力づくりをしたいということである。

3つ目の例は、「住みよさ、地域づくりプロジェクト」で、住環境をさらに良くし、なおかつ人同士のネットワークを作ることによって、快適に暮らせる地域をつくっていくというプロジェクトができるということを示させていただいた。

この3例については、だめならだめだと言っていたが、その他にこの部会でもっと大事なことがあるのではないか、重点はここに置くべきだという新たなものがあれば、ぜひそういうものをつくっていただけるとありがたい。2回の審議会では、そこまでできないということであれば、事務局の3つの例を修正して組み立てていただくというの

もいいと思っている。最後の4ページには、他の自治体の事例として、上尾市、男鹿市、矢板市の例を載せたので、参考まで。

これまで審議会で出た話、特に部会の意見をまとめて全体会議で報告した部分に色々ヒントがあると思ってこういうものをつくっている。その他にも、市民アンケート調査結果、今の総合計画の課題、そういったところからもでき上がっていくのだろうと思っているが、なるべくなら都市像と関連があるようなイメージでつくっていただけると、よりわかりやすい重点プロジェクトができるのではないかとと思っている。新たなプロジェクトをつくっていただけたら、それは非常にありがたい。

【部会長】 目指す都市像が3つ掲げられているが、3つだけにするということか。前回の重点プランは5項目ある。3項目にこだわらなくていいか。

【事務局】 今後の審議次第ではあるが、数は3つから5つ、6つ程度が適当なところかと事務局では思っている。あまり多くなると、重点として捉えにくく、焦点がぼけてくると思う。

【部会長】 重点プロジェクトにするものは、実現性の高いものだと思う。今後10年間のうちに、100%までとはいわなくても、事業に着手し、目標値をどこかに決めるということまで考えなければいけないか。そこまでの拘束力はないか。

【事務局】 10年間で実現できるイメージのものがいいのではないか。重点プロジェクトはわかりやすく、何ができ上がり、10年間でどのようなプロジェクトを実現させるのか、具体性のあるようなもののほうがいいと思う。

【部会長】 原案としては3つ重点プロジェクトが出ている。部会としては10年間の目標の中でできるのではないかとということまで考えて意見を言わなければいけないか。

【委員】 ここにある表現は、目標数値が決まっているというような表現ではなく、あいまいな表現ばかりだ。それに向かっていくということなのではないか。私はそう捉えた。

【部会長】 この部会の意見は3つ全部に入っている。

【委員】 行政の目標の作り方はこういうことかと見ていて感心した。それぞれ議論したことの意見を寄せ集め、こういう方向でというタイトルをつけて、うまくまとめていると思う。ただし民間では、結果が想定できないものはプロジェクトではない。言いっぱなしプロジェクトは全く否定される。このプロジェクトを進めて、行政予算やどんな結果が出て、あるいは、そう想定できるからこのプロジェクトを進めるべきだといった何か定量的なものがないとわかりづらい。審議会でまとめた重点プロジェクトを今後やっってくださいと、本当に責任を持って次世代の人に言えるか、言葉としては違和感がある。

ただ、まとめ方としては、さすが行政だと思う。

【委員】 3か所の市民説明会の概要を見ると現実的だと思った。市民の目線がある。本当に現実性のある話ばかりである。それをどう表現していくか、どう記載するか。

【委員】 構想とはこういうまとめにせざるを得ないのではないかと思う。

【委員】 立派にできていると思う。

【委員】 総合計画とはこういうものなのかと思った。

【委員】 こういうものができ上がってから、今度は数値目標をつくって評価していくのか。

【事務局】 基本計画の節ごとに成果指標や数値目標のようなものを掲げたいと思っている。

【委員】 総合計画をやってきて得たもの、定量的なものを見たいと思う。プロジェクトを何年かやってどれだけのものを投資して何を得たか。例えば、現在の基本構想と基本計画、推進計画、あるいはプロジェクトによって10年間でどういう結果が出たかは興味深い。10年に1回審議会委員が集まり答申して終わり、その後の10年間でどう動いたかについてはまったくなく、10年後の構想を提案していただくだけの審議会では、責任の持ち方、意見の出し方も難しいと思う。

【委員】 結局言葉合わせで、あまり定量的なことがなく、方向性だけ示すということにしかならざるを得ない。

【委員】 一つくらい具体的なプロジェクトがあって、例えば人口、税収等の数値で表せるようなものがあったらいいのではないかという気がする。

【委員】 男鹿市の事例で団地は若年層流出の抑制と書いてある。これは立派だと思う。やはり北広島はベッドタウンなので、これをどうするかが最重点だと思う。

【委員】 私はもう一つあると思う。大曲の工業団地のあたりは、流通の拠点には最適な場所だと思う。あの地域は工業専用地域にしておく必要はなく、例えば準工業地域でもかまわない。工業専用地域だと宿泊施設がたてられないので、工業団地の発展にストップをかけているのではないか。例えば半分位を準工業地域にすれば、住居エリアをとれる。そうすることで、もっと発展のスピードが速くなるのではないかという気がする。確かにベッドタウンであることは間違いないが、工業団地の見方にも柔軟性を持たせたほうがもっと発展するのではないかと思う。

【事務局】 宿泊施設とはどのようなものか。

【委員】 企業は管理棟は建てられるが、工業専用地域だと宿舎はつukれない。確かに工業団地の土地は売れているかもしれないが、実際に建物を建てて営業をしているのは6割かその辺ではないかと思う。残りの4割位の土地は売れたが稼働していないところがあるのではないかと思う。空き地が結構あるようで、その辺のことがネックになっているような気がした。例えば工業団地に勤めている人たちの独身寮はつukれない。仮寝する場所はいいが都市計画的な規制がある。準工業地域にすれば、結構稼働率がよくなるのではないかという気がする。

【事務局】 近くの住宅地に独身寮をつくる方法もあるが。

【委員】 石狩市でも同じようなことを議論している。社員が若いうちはアパートを借りたりするが、では40代や50代になって子どもが大きくなったときに戸建て住宅やマンションをどこに求めるか。幼稚園や小学校など教育の場、買い物場所、仕事場である工場、そして住宅すべてを含めた都市計画がなされているか。工場で何かトラブルがあったときにすぐに対応できるように近くに住宅を構えたくても、そういうことについての相談窓口はない。今あるところから選んでくださいという感じだ。しかし、企業誘致だけはしている。これから工業団地で企業誘致をしていくなら、そこで働く人たちの住まい、教育の場等まで考えるべきではないか。

【委員】 従来の工業団地には空き地が多く、撤退しているようなところもある。夏祭りの寄附の願いに歩いていて、去年撤退したという会社が結構ある。大曲は平坦ですばらしい土地だが、古いところは撤退しているケースもある。

【委員】 北広島市はある程度上手に開発してきたと思う。苫小牧では中心市街地がさびれ、大型店が撤退している。その一つの原因は、まちづくり計画として苫小牧の中心地を東西に割ったことにある。錦岡方面が住宅地、苫東を工業地帯にしている。苫小牧は広い道路をつくったが思惑どおりにはいかなかった。錦岡も住宅地として発展はしたが、沼ノ端地区が民間造成により住宅が張りつき、市としての思惑が民間の開発ペースに巻き込まれて逆転してしまった。通勤で中心地を行き来し、人の流れもうまくいくという計算が大きく狂ってしまった。北広島は大曲地区に工業団地をつくって、道営団地を含めた側は居住地区という計画はやっていなかったと思う。やっていないのが正解だったような気がする。

【事務局】 大曲にも住むところはたくさんある。

【委員】 北広島は5つに分散していて行政サービス面では問題があるという指摘を受けるが、うまくネットワークでつないでいくことについて、これから我々が議論していかな

くてはいけない問題ではないかと思う。政権が変わって、色々な分野で規制が出るのかはわからないが、今までの流れでいけば、いくら行政がある程度青図を書いたとしても、民間の資本の動き方次第で大きく変わってってしまうという部分がある。

商工会としては、アウトレットモールもインタービレッジももろ手を挙げて賛成ではなかった。商業拠点が移ることで地域の空洞化現象が起きたが、食いとめることはできない現実の問題としてとらえていかざるを得ないので、行政との連携などにより、残った商店にどういう施策で手助けできるかやっていくよりしょうがない。

今一番興味があるのは、食の安全、健康などで、重点プロジェクトの1つのキーワードとして含め、具体的にはグリーンツーリズム等の事業を行政が中心になって進めていけないものかと思う。それで地域を活性化できないか。

どこの町内会もそうだが、町内会単位での人のつながりを何とかしたいという問題を抱えていると思う。そういう問題をどうするか。ただ集まれ、集まれと言っても、皆さん忙しいから集まらない。何か共通のテーマがあれば、そこへみんなが集まってくる。それがグリーンツーリズムだったり、秋に収穫祭をやって自分たちでつくったものを販売したりというような活動に対して支援するなど、うまくつないでいけないかと思う。

熱心に堆肥づくりの指導をしている方もいるので、そういう方々に手助けをお願いするとか、またJAは頼りになる団体なので相談できると思う。商工会としては、そういうものがどんどん活発になると、商業の方にもつながりができ、工業にもつながる部分がでてくると思う。そのいい事例が恵み野である。花のまちということで全国的にも有名になり、それに関連して園芸品などの商いができている。

【委員】 食の安全や地産地消はいい切り口ではないか。グリーンツーリズムも北広島にも近年増えているので賛成だ。

【委員】 これでいくと3番の「住みよさ、地域づくりプロジェクト」に近いということか。

【事務局】 どちらかというとなら2番目の「にぎわい、魅力づくりプロジェクト」に近いかもしれない。

【委員】 地産地消があるから、私も2番かと思う。食の安全は切り口としてどこかに入れたらいい。

【委員】 農業関係としてはあまり喜ばしいことではない。農業者は補助金をもらいながら、いいものを出そうとする。家庭菜園は小さくても大きくても安く出そうとする。値段が崩れると、また補助金となってきて、これは裏表があるもので、関係者としてはあまりうれしくはないところだ。新聞でみたが、産直の補助金がカットされるものがあるようだ。個人的には、それでよかったという部分もある。

【委員】 産直等は市内にたくさんあって、市も応援している。こだわってつくって売って

いるところ、実際に農業をされている方にとってはどうなのか。

【委員】例えば規格もののジャガイモを1袋100円で販売していても、一般の人がアルバイト的に小さくて粒もそろっていないから50円で売るといったら、やはり消費者は50円の方に行く。そうすると、一生懸命規格品で出したものが売れなくなる。だめだとは言わないが、農家はまた苦しくなると思う。四国の高知に行った時に、朝市を見て感動した。おばあさんがベニヤ板1枚程度に、野菜、果物、たくあん、飴、餅などを並べて売っていた。その朝市は400年続いているそうだ。月に2回くらい場所を変えてやっているようだ。これを北広島でやれたら最高だと思った。団地にいるおじいさん、おばあさん、だれでも参加できるようにしたらおもしろいと思って、商工会に言ったが流れたことがある。エルフィンパークをもっと活用したらどうか。あそこは飲食はだめなのか。

【事務局】飲食は可能である。

【委員】帯広の屋台を見たが、エルフィンパークも、もし許可されるのなら同じことができたらおもしろい。市の管理範囲か。

【事務局】エルフィンパーク全体は道路である。その一部を交流広場としてイベントなどに使える。その使用の許可は市が出している。これからは、もっと柔軟に使えるようにする考えを持っているようだ。エルフィンパーク全体を使うような利用方法は認められない。

【委員】だけど斜路の全部は通路として使われていないのではないのか。昔、市役所の前で盆踊りをやったが、あの時は道路を封鎖してもらった。北広島はそういう面で他のまちから見たら融通がきかない。他では、結構融通をきかせてまちの真ん中を通行止めにして使って、イベントをやっているようだ。市も少し力を入れて何かやることを考えてはどうか。

【委員】以前は青年会議所などが一生懸命寄附を集めて、イベントを活発にやっていたが、だんだん下火になってきている。

【委員】資料の2番、3番に北広島駅周辺の活性化とある。東京の品川駅の駅事業はすごいが、何であれをエルフィンパークではできないのかと思う。商工会では強く押せないか。

【委員】商業部会でやっているが、イベントをやっても実際は見込んだ集客が得られていない。

【委員】例えばパン屋や焼鳥屋などをあそこにつくることはできないか。

【委員】商工会の立場からすると非常に微妙なところである。そういう事業を起こすことはいいが、既存の商店との問題がある。市民からの要望でエルフィンパークに焼鳥屋などの屋台をつくると、必ず既存の会員から影響を受けたらどうなるのだという声上がる。既存の商店がそこに参加するという形が我々としてはいいのだが、なかなかそうはならない。

【委員】JRは全国的に見れば高架下はほとんど使っているので、北広島もまったくだめというわけではないと思う。

【委員】北広島は人口が少ないので商売にならないのではないかと。

【委員】北広島は人口密度が低い。市の人口は6万人程度でそれなりだが、5つの地区に分散していて、商売にならないようだ。駅前開発の議論のときに、その辺の調査をするところでは商売にならないという話になる。もう少し人口密度を高くしないと。団地や高層マンションを建ててくれると人口密度が上がるので、それなりに商売になるだろうと思う。しかし、それをやると住環境や景観が悪くなる。結局、お店がなくなって不便だと地域の方は言うが、再開発しようとするとう嫌だと言う。今の生活環境をきちんと維持しつつというのが本音だろうから、その地域に合ったようなものが必要である。

【委員】地域のふれあいがほとんどないので、これを何とかすればもっと活性化できると思う。

【委員】我々の町内の地域でもそうだ。町内会で役員が行事をやっているが、それをやめたからって文句を言う人はいない。しかし、地域としては一人で住んでいる方、高齢の夫婦については見過ごすわけにはいかない。行政だけに頼ってという話でなくて、地域で支えていくべきだと思う。ただ、そのことを理解してもらうのは非常に難しい。また、子どもが少ないということで交流がしづらい。子どもがいると交流は密になる。例えば子どもたちが公園で遊んでいると親は公園の整備などに無関心ではいられなくなる。

【委員】まずは、少子化を解決しないとイケない。

【委員】私たちの町内会では、ここ2・3年で子どもの数が増えた。そうすると、それまで公園の整備についてはみんな無関心だったが、子どもたちが遊ぶようになると、生け垣だけがをしたらまずいからといって生け垣をきれいにし、草を刈り、最近では非常に公園がきれいになった。

【委員】公園で火が使えないというのは何とかならないか。公園で火が使えないと町内会の懇親会やバーベキューができない。

【事務局】直火はダメだが、足つきのコンロなどを使えばいい。公園担当の都市整備課に聞いたら教えてくれる。

【委員】この10年計画の中で少しでも前進できれば成功ではないかと思う。今、説明会には10人程度しか集まっていないようだが、次回の中には、30人、40人と集まっていただけのように重点プロジェクトを打ち出すべきだ。

【部会長】町内会の活性化という言葉が重点プロジェクトの中にはないが。

【事務局】市は町内会などへの説明のため出前講座をやっていて、各部局の仕事について、呼んでくれたら出向いて説明している。市のほとんどの業務は説明に行ける準備ができている。

【委員】呼んでくれればではなくて、積極的に市から行ってやってもらったほうがいいのではないか。

【委員】重点プロジェクトのキーワードとして出前講座をいれてはどうか。市としてもこういうサポートができるという説明にもなる。

【委員】我々の町内会はごみ処理場の近くということもあるので、市から説明があるので集まってくださいといえれば来る。町内会側からとなると、何の内容で呼んでいいかわからないときもある。市から色々と町内会に呼びかけていったほうが集まる率は高いと思う。

【事務局】市からの説明手法は両面で用意している。身近な問題などの説明は市から出向いて説明をするし、市民の要望に応じて説明に出向く手法も用意してある。

【委員】プロジェクトを進めるにあたり市は何も手段を持っていないわけではないので、今までやってきたような手段をうまく使うことが大事だと思う。結構地域と密着したやり方を行政もやっておられる。そういうことは大いに評価して、活動してもらわなければならない。

【委員】一般の人はなかなか市の職員と話をすることないので、そういう場や機会をつくらたい。そこから色々な要望等が出てくるのではないかと思う。

【部会長】今日は、重点プロジェクトの例として3つ出してもらったが、この3つで私はまとまりがいいと思う。もう少し中身として具体的な目標を入れ、先ほど話のあったグリーンツーリズム、食の安全のことも含めて膨らませていければと思うがいかがか。

それでは、この部会では重点プロジェクトは3つでいくということで、次回また議論を進めたいと思う。3番目の地区別基本的方向については、12月以降に話し合うのか。

【事務局】 そうなると思う。

【部会長】 私たちで考えておいたほうがいいのかはあるか。

【事務局】 今の総合計画には「各地区の課題と基本方向」があり、地区の特性を先に書き、その後に施策が載っている。ここに出ている施策は、第1章から第6章までにあることが重複して書かれているので、結果的には「各地区の課題と基本方向」は、各論の1章から6章までに出てくる内容と同じものである。こういったものにするのかどうかを事務局でもう一度考えてみたい。また、今の計画では3地区としてとらえているが、これには異論もあり5地区のほうがわかりやすいという意見がある。3地区にするのか5地区でみるのか今の段階では決まっていない。そのため、地区別の基本方向を考えていただくというよりも、例えば皆さんの居住地区での課題を上げていただき、その解決にはこういう対策がいいのではないかとといった話をいただいたほうが、事務局にとって参考になる。

都市計画図は市街化区域に色をつけてあり、図面をみると、例えば北広島団地と東部地区は一体となっている。3地区というのは、そういう地域を2つに割って考えないほうがいだろうということ。また、それと似たようなことが大曲と輪厚にも言えて、現在は大曲と輪厚は調整区域で離れているが、その間に開発予定地があり将来的にはつながった市街化区域になるだろうという想定のもとに一つの地区という考え方をしている。西の里だけは他の地区と合わせる要素がなかったので3地区になっている。市街化区域で見るとそういうことになるが、調整区域もあわせて考えると、どう区切るのがいいのか。そういうことも、これから考えていきたい。

地区別プランが基本計画の1章から6章までと同じことが書いてあるのだったら、それほど意味を持たないのではないのかなどについても事務局で考えさせてもらいたい。

【委員】 市民から見たら、あえて地区のことを入れる必要はないのではないか。議会にまかせてもいいのでは。

【委員】 5地区や3地区という見方は北広島市独特の考え方か。

【事務局】 そうではない。他の自治体の総合計画の中でも結構地区で分けている。歴史的な成り立ちが違う地区が一つの市町村になっているまちも結構あるので、地区を分けているほうが多いと思う。

【委員】 それでは、事務局では分けて整理していただいたほうがいいのかもしいない。行政合併になったときのことも考えて色々と整理しておいたほうがいいのか。

【委員】 霊園と火葬場の記述は総合計画から消えたと思うが。

【事務局】 見出しは変更したが、内容は残っている。

【委員】 先日身内の不幸で苫小牧の火葬場に行った。その火葬場は平成9年に建て直したようで、ロビーや遺族の休憩室が非常にきれいで、雰囲気もよく、北広島の火葬場とは雲泥の差だった。亡くなった方の人生の最期を皆で静かに送ってあげたいということが一番に考えた建物だと思う。北広島の火葬場は、厳しく言えば処理場だ。設備が古いというのもあるが、市民の生活環境が充実しているとは言えない。公共施設として箱物ばかりつくってはいけないということはあるが、北広島も考え直さなくてはならないという気がした。単に「霊園の整備、火葬場の新設」というと、風当たりが強くなり、直して使えばいいという話になりかねない。そうではなく北広島市民の最期を静かに家族や皆で送れるようなものにしたいという説明があれば、市民も納得すると思う。合理的にというのではなく、認識を変えなくてはならないと思う。

【委員】 その場に直面した人でないと理解できないことだと思う。身内の人達と最期に別れるときに、どんな思いでそこにいるか。少しでも心が安らぐような場に配慮されていないまちでいいのかと思う。この件については表現の仕方に配慮して、整備をしてもらいたいと思う。うちの父親も友人の葬儀で北広島の火葬場に行ったが、帰って来て自分の火葬はそこでしてほしくないと言った。それはつらいことだ。

【委員】 大曲地区だと、近くに里塚の火葬場がある。あちらのほうがきれいなので北広島の火葬場には行きたくない。

【事務局】 霊園と火葬場については、総合計画素案に載っている。北広島市が単独で新しい火葬場をつくるだけでなく、札幌市の里塚を使わせてもらうという選択肢もあり得る。

【委員】 今、葬儀は病院から直行という場合が増えている。設備がきちんとしていて、ロビーで待てるからできるのであって、北広島では難しい。まつりごとを否定するという新しい時代かもしれないが、色々なことを含めて、どんな時代であってもきちんとすべきことだと思う。

【委員】 札幌市に頼るといっても札幌の状況はどうか。埼玉の人から話を聞いたことがあるが、埼玉では亡くなってから火葬するまで早くても3日で、場合によっては1週間かかるようだ。それくらい火葬場が混んでいる。そのため一つのビジネスとして葬儀屋の冷蔵庫で遺体を預かるというものが出てきている。札幌市に頼るとなると、札幌市も高齢化してきているのでそういう需要は増えると思う。

【委員】 自分は一生働いて子供たちに葬儀代くらいは残しておいてやりたいと思う。一生懸命つくりあげてきた市財政で、なぜ人生最期の葬儀場くらい用意できるようなまちづくり、豊かなまちに市民はしないのかと思う。札幌に頼るのも一つの方法だが、もっとまちに力をつけ、市税を上げてでも最期の火葬場くらい、市で、市民でつくろうという気持ちがないと、まちは発展しないと思う。

【委員】 今言われた意味はわかるのだが表現が難しい。まちの品格というか、やはり人生最期のところがきちんとしていないというのは寂しいと思う。

【委員】 基本的には、専門部会で検討されてきた項目を踏まえ、各部会がうまくつくり上げて、重点プロジェクトができることに異論はない。ただ、今回この審議会を通して感じたのは、10年前の総合計画は、何が成功して、何が成功していないのかが把握できない。総合計画をつくっても、評価を時系列的にしっかりやり、次の総合計画に橋渡しする仕組みを持っていないと思う。基本構想と基本計画がつくられ、途中で基本計画を見直し、推進計画が毎年市でつくられ具体的に動くが、基本構想がどう推進計画に反映され動いていくのかがわかりづらい。総合計画素案の説明会に市民が集まっていないようだが、市民の関心が低いのは、この構想が具体的にどう推進されるのか、その辺りが不透明だから結果的には興味を示さないのではないかと思う。

行政はどのような方向で税収を確保し、どのようなまちづくりするといったことや、費用対効果を定量的に押さえていない。行政運営のコンパクト化、省力化、効率の向上とコスト削減といった、そういう視点が薄いと思う。

今回の構想は決して悪くないし、議論してきたことも悪くないので、あとは実行してほしいと思う。そのためには、これらを検証するような総括プロジェクトとして「まちづくり委員会」のようなものをつくり、総合計画の進捗管理をやってほしい。重点プロジェクトの進捗管理、基本計画の総合的な妥当性、また単年度の推進計画が構想と一致しているかも見ていけるような「まちづくり委員会」になってほしい。推進計画、基本計画で実際に行政が動いた後の評価や、市民や企業側からの意見・要望も収集し、基本計画を見直し、次年度に策定する推進計画の修正にかかわるような委員会になってもらいたい。

今の長期総合計画審議会は、来年答申したら解散となる。あとは重点プロジェクト、基本計画、推進計画と動き始めるが、そのとき、まちづくり委員会による総括プロジェクトを置けば、市長も自分の考えをあわせてこの委員会を活用したりして動かしていけるのではないかと思う。各部会で色々と議論されてきたことが10年間で一つ一つ実現されるだろうし、次の次の長期総合計画を検討するときにもうまく橋渡しができると思う。総括プロジェクト・まちづくり委員会のようなものがあれば、実効性ある進め方ができるのではないかと思う。

【委員】 継続管理についてということには変わりはないか。

【委員】 それは変わらない。何かないと、10年経って前回はどうだったか、今はどう動いているのか、どこで軌道修正をかけたのかがわからないと思う。

【委員】 意識しているのかどうかは別にして、進行管理しづらい表現になっていることも事実だ。

【事務局】 基本目標などのうち何が達成されたと言えるのかという部分はわかりにくいと思う。

【委員】 毎年度つくる推進計画に口を出すような組織みたいになるので、どうなのかと思う。

【事務局】 例えば外部評価委員会という組織もある。毎年度の予算に絡むことであれば、議会の関与もあり、さらに市長の職務権限を考えると、選挙で選ばれた市長が自ら組み立てていってもいいのではないのかということもある。

【委員】 どんなふうに整理するかは事務局にお任せしたい。ただ、今のまま総花的に言葉だけで構想があって、僕らの役割はそれで終わりなのだが、この構想を練るのにこんなにエネルギーを費やし、市民の意見までもらい、一体何だったのかとなる。

【委員】 10年というのは長過ぎる。例えば5年くらいで見直すようにしていく。近い将来道州制の問題も出てくるだろうし、政権交代で風向きが変わってきているし、市もどうしていいのか右往左往するような状況になってきているのではないか。

【事務局】 素案の1ページ目に書いてあるが、基本構想も基本計画も10年間の計画期間である。基本構想は、柱になる部分でこれが議会の議決の必要な部分だ。基本計画自体は議会の議決要件にはなっていないのだが、基本構想と基本計画をつくり上げて議会に提案する。そうでないと、議会も中身がわからず審議しにくい。法律上は基本構想だけが議決案件だが、これらは一体的に審議される。基本計画は「必要に応じて中間年で見直しをする」とこととしている。やらないこともあるという書き方だが、たぶん5年くらいで見直しが必要だろうとは思っている。推進計画は来年度中に3年分の計画をつくる。23、24、25年度にこういうことをやるという計画をつくる。事業レベルだから、予算をいくらかいかけるということも入ってくる。1年たったら、23年分が消え26年分が追加され、24、25、26年度の3か年の推進計画ができ上がるということを毎年繰り返していく。それが今考えている推進計画である。

【委員】 市は事業評価の中で、細かく4段階評価といったようなものを行い、公表している。

【事務局】 評価は全事業を対象に実施している。事業では450件くらい、補助金で100件くらい。評価調書をつくっただけで終わっているのではないかという批判もあるので、評価結果がどのように予算などに活かされているか、そこでどんな成果が生まれているかということを見せることが足りないのだと思う。その運営サイクルがうまく回ってくると思う。

【委員】 日本の経済に閉塞感があるのは、規制緩和だけを言うからで、アメリカは別にして、伸びている国は規制の創造というか、規制を新しく作り変えて、こういう産業が伸びるよという方法で引っ張っている。日本ではホリエモンがたたかれて以来、ベンチャー、IT関連業者がほとんどなくなった。新しい産業が起き、産業構造が変わるときに、規制しているものを緩めるだけではなく、束ねるような産官学の組立てをしないと産業は伸びない。今後バイオテクノロジー、医療分野にしても本当に大丈夫かと思う。国がそうだからといって、地方も一緒になって国と同じ規制をかけるのはどうか。世界の資本は、ベンチャーがどんどん伸びているインド、中国、シンガポール等に持っていかれる。日本のベンチャーには資金が来ないし、株も上場しない。経済全体が閉塞感にあるのは規制が強く、また規制の緩める方向性もわかっていない。

【部会長】 それでは、今、委員から出された意見を含め、次回に向けてやれる部分はやりたいと思うがよろしいか。事務局から何かあるか。

【事務局】 先ほど2つ宿題をもらった。商工会に関する件、食の安全やグリーンツーリズムの件を例2に入れてプロジェクトとして修正するという事だった。修正は次回に間に合わせるようにする。

【委員】 他の部会でも色々意見が出ると思うので、それと織り交ぜてほしい。

【事務局】 他の部会での意見はまだまとまっていないと思う。次回までに出すのは難しいと思う。

【委員】 もしもそれを入れて全体がぼけるなら、他の部会から出た意見で分けたほうがいいようなものがあれば分けてもらってもいい。

【事務局】 例えば分離して2つのいいものができることもある。

【委員】 色々あると思うので、そういうことも検討してほしい。

【事務局】 できるだけ27日に案をお見せできるように準備する。

【部会長】 お願いしたい。

【事務局】 再度のお願いだが、明日は中央会館で、明後日は夢プラザで市民説明会があるので、知人、友人等に声をかけていただくとともに、自ら来られる方がいればお願いしたい。

【部会長】 それでは、第6回の部会を終わらせていただく。

以 上